

Danke Berlin

『ありがとう ベルリン』 2013年6月 No.1

ドイツ連邦共和国 ベルリン日本人国際学校 多田明寿（札内中学校 在籍）

みなさん、こんにちは。平成25年度、ドイツ・ベルリン日本人学校に派遣されました、多田です。こちらに赴任し3カ月が経とうとしていますが、ようやく公私共に馴染んできたところです。この通信では、ドイツでの生活や派遣教諭としての過ごし方を掲載していきたいと思います。

ドイツ・ベルリンへ出発。

前日に文科省で辞令を頂き、4月6日午前11時30分、成田空港から段ボール14個とスーツケースを手荷物にして、日本航空フランクフルト行に搭乗しました。フランクフルトから首都ベルリン行に乗り換え、合計13時間を経てようやく到着です。空港を出た瞬間に感じたドイツの空気は「北海道の澄んだ空気に似ているなあ〜」と思わせるほど、爽やかな心地を与えてくれました。



ベルリン日本人国際学校。

6日夜にベルリンに到着し次の日から住民登録や大使館挨拶、そして銀行口座開設などなど本当にドタバタした4月前半でした。しかし一番大切なことはやっぱり「学校」です。11日の着任式から本格的に勤務がスタートしました。

日本人学校の中での異文化理解



日本人学校に勤務してまず最初に感じたことは、意外にも「日本の異文化」でした。普段、北海道の十勝で勤務していると感じないことですが、教職員はもちろんそこに学んでいる児童・生徒達も保護者の仕事の関係で日本全国から集まっています。東京、大阪、愛知、四国・・・当然のごとく話し方や文化が違っており、思わぬところで「異文化理解」を感じるようになりました。一言で「日本」と言っても、その意味は広いなあと痛感しています。外国にいながら再度、日本の文化を学んでいくことになりそうです。

『あながき』
これまで数回、海外を訪れたことはありましたが、実際にそこで生活することはもちろん初めてです。当初は、生活基盤を整えるのに必死な毎日で、周りを見る余裕は全くありませんでしたが、少しずつドイツ生活を楽しめるようになってきました。仕事&プライベート共に、一層充実させていこうと考えています。そしてこのチャンスを与えてくれた、札内中学校や十勝国際理解教育研、JICA帯広の方々、ダンケ（ありがとう）サッカードール&音楽&歴史・・・魅力一杯のこの国に、感謝をもって頑張ります。



現地校との交流でベルリンフィルハーモニーの舞台に立つ日本人学校の児童生徒たち